

ALL JAPAN HIGH SCHOOL ATHLETIC FEDERATION

全国高体連ジャーナル Vol.41 2021年7月発行

全国高体連 ジャーナル



発行者／公益財団法人 全国高等学校体育連盟
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 / レスサイトビル2F



インターハイ公式キャラ
「ウニンくん」
LINEスタンプ販売中!



特集1 高校生に贈る言葉

「**スポーツの力**」 ルネサンス所属 日本大学3年生 水泳部
池江 璃花子

特集2 世界にはばたく高校生

「**夢に向かって漕ぐ**」 島根県立島根中央高等学校
小鏝 亮太

2021
Vol.41

ダブルゴールデンコーチング



長崎日本大学高等学校
柔道部 監督
松本 太一

■教員になった理由

「教員免許を取れ。俺に人生を預けろ」きっかけは大学の恩師、故高木長之助先生の鶴の一声だ。元々教員志望ではなかった私だが、日本大学経済学部を卒業後、日本大学文理学部の科目等履修生となり、2年かけて保健体育教員免許を取得した。教員になりたいという強い希望を抱いていたわけではなく、ダメなら実家の工務店を継げばよい、くらいの気持ちであった。「とにかく10年頑張ってみろ」という恩師の言葉で長崎日大に来て、はや17年目となる。12年経った時に、師匠にある相談をしようか悩んでいた時に、突然の計報が入った。恩師の急死である。思い出すと今でも胸が苦しく、切なくなる。しかし、その計報をき

かけに、教員として根を張る覚悟が生まれた。恩師に恥じない、負けない教員になろうと。

■部活指導者として

教員1年目に、目指すべき先輩と出会うことができた。当時、インドポール部顧問をしていた谷山理先生である。インターハイでも優勝したことのある名将だ。谷山先生に、「5年で県団体優勝できたら一流の指導者と言える。超一流を目指すなら、まずはそこからだな」と言われた。その言葉に押され、5年で優勝してやるという気持ちで必死に取り組んだ。迎えた5年目の最後の冬、全国高校選手権の県代表団体切符をつかむことができた。会場で喜びを噛みしめている時に、谷山先生が駆け寄ってきてくれた。「おめでとう！

たいしたもんばい！」とわざわざ試合会場まで応援に駆けつけてくれて、最高の誉め言葉をいただいた。あの瞬間、あの感動は今でも覚えている。しかもその年に開催された、全国高校柔道選手権個人戦81kg級において全国優勝を成し遂げることができた。この選手こそが、東京オリンピック81kg級日本代表、リオデジャネイロオリンピック81kg級銅メダリストの永瀬貴規である。この選手との出会いが、指導者として一段も二段も成長させてくれたように思う。

部活を指導するにあたり、一番大事にしていることは、生徒の日常生活である。模範生を目指させるのではなく、普通の高校生活を送れる生徒が一番強く、価値があると思う。普通に勉強も掃除も挨拶も、そして遊びも。すべてのこ

とを当たり前のように普通にできる。それでこそ、部活をやる意味がある。勉強はしないで柔道ばかりという考えの子もはじめはいるが、それでは柔道をしている意味が、部活をする意味が薄れてしまう。いろいろな人に応援してもらえる人間にならないと、意味がない。それらをないがしろにして、たとえ試合で勝ったとしても、それは強さではなく、勝ったという結果だけ。本当の強さを身につけるためにも、柔道だけという考えは教えない、教えてはいけないように気をつけている。

■全国大会の中止を受けて

2020年、世界中で新型コロナウイルスが猛威をふるった。その影響で、スポーツ界も大会の中止が相次いだ。まず3月に開催予



長崎県高校総体男子団体6連覇達成



平成30年度インターハイ66kg級桂嵐斗優勝。
長崎県代表として2人目の快挙。(1人目は永瀬貴規)

定の全国高校柔道選手権が中止になった。この時は、「選手権中止」でも、夏には大丈夫だろうから、インターハイ頑張ろう」と、すぐ切り替えられた。しかし4月末、追って夏のインターハイも中止が決まった。大会がない、ということよりも、目標としていた大会がなくなってしまう生徒たちの心をどうするべきか、真っ先に考えた。この子たちの歩みをとめさせてはいけない。そして、この決定に対して文句を言うような大人にしたいいけない。そう思ったので、休校中だったこともあり、SNSを利用して生徒に次のように伝え

た。
「3年生の心情を考えると、残念というか無念でなりません。ただ、新型コロナウイルスという驚異的な病が発生してしまった今、致し方ないを受け入れるしかありません。だから、開催されていれば自分たちが一番強かった。柔道を続ける組は、そう胸を張って言えるような努力を継続しよう。国立や難関大学を目指す組は、今日を境に勉強しましょう。必ず一発合格を成し遂げられるよう、そこで憂さ晴らしができるよう、この悔しさを、無念さを忘れず勉強に打ち込んでください。1、2年生は少しでも

かわいそうだ、と思う気持ちがあるなら、努力してください。強くなってください。君たちが勝ち続けることで、先輩たちの無念は必ず晴らせます。

さあ、これからいろいろな言葉をかけられることでしょう。今までの努力は無駄にはならないから、とか言われても、いや無駄だろ、って思ってしまう自分がいてもいいです。でも願には出さな。行動にも出さな。それが人間性であり、それが武道・柔道を続けてきた証だ。

また学校が再開したら、話をしましょう」

さらに保護者の方には、この続きも付け加えた。

「本当に辛いのは3年生であり子供たちです。ですが、これは仕方のないこととして受け入れるしかありません。私はこれからも変わらず、生徒が成長するために、真剣に向き合い、ともに戦っていきたいと思います。ですのでお願いです。この中止の決断に、われわれ大人が文句を言えば、生徒も文句を言ってしまう。そんな

大人にしてはいけない。行動できるように、言葉かけをお願いいたします。何と云ってよいかわからない時は、そっと寄り添ってあげてください。近くで寄り添えない時は、好きな物でも買ってあげてください。前向きに行動しましょう」

これが良いのか悪いのかはわからないが、生徒から、これで前を向けたと言ってもらえたことで私も救われた。

■私の目標

私は、どうすれば強くなるのか、どこを伸ばせば強くなるのかを考えて指導をしている。子供たちを強くするという目標の先に、結果として日本一がついてくるものだと思っている。もちろんチームと各個人の明確な目標を持たせ、その目標に向かっての努力を考えさせているが、指導者としても日本一を目指すというよりも、一人ひとりの今後の長い人生を考え、しっかりとその子の心に生き続ける指導を今後も続けられるように、精進していきたい。